流山市立博物館

ながれやま 博物館だより

第４号（令和５年１２月／年２回発行）

おしらせ

● これからの講座

詳細は広報ながれやま、博物館ホームページ等でご確認のうえ、お申込みください。

寺子屋講座

12/7	みりん学講座―みりんでおせち―
1/20	くずし字入門―地名から学ぶくずし字―
2/17	考古学入門―貝塚について考えてみよう―
3/16	考古学入門―埴輪について学ぼう―

古文書講座

2/4・11・18	後期

子ども教室

12/3	木の実工作
12/16	昔の印刷機で年賀状を作ろう！
2 / 3	和綴じノートを作ろう！ NEW!
3月中旬	茶道教室

※日程・内容は変更になる場合があります。

資料・文化財紹介

● 新発見！ 新選組関係史料

令和５年度企画展「近世流山の13枚」の事前調査で、新選組に関する史料が新たに見つかりました。

これは慶応４（1868）年の史料で、「流山合戦」ないしは「流山村合戦」という文言が見られます。

▲「流山合戦」と書かれている箇所

新選組が流山に来たのは慶応４年４月1～3日頃とされており、史料中の記述とも矛盾しないことから、この「流山合戦」「流山村合戦」は新選組のことを指しているとみて間違いありません。記されている内容は人足（労働力）を差し出した記録です。突然の新選組の来訪により、大きな混乱があったことが目に浮かびます。（上條静香）

● 国登録有形文化財「秋元家住宅土蔵」の保存修復工事とその現状

今年の 3 月から秋元家住宅土蔵の保存修復工事が始まりました。土蔵の経年劣化が激しく、屋根の棟のゆがみや瓦のずれが見受けられていたことから、当初は屋根瓦の葺替(ふきか)えと壁の漆喰(しっくい)の塗り直しを行う計画でした。しかし、いざ解体修理が始まると、色々な問題が出てきました。

解体中の屋根。杉皮が見える。

土蔵は建物全体が土と漆喰で作られており、火事にも耐える堅牢な造りの建物です。屋根は上から順に瓦・土・漆喰・土・竹・杉皮、そして野地板(のじいた)（木板）と、いくつもの層からできています。解体調査を進めていくと、多くの瓦にひび割れが確認され、再利用は難しいことが分かりました。また、瓦を外すと屋根の棟がゆがんでいた理由も明らかになりました。瓦の下にある土が雨漏りの影響で流れ出し、大きなひび割れができたことで瓦全体がずれてしまったようでした。建てられてから 150～200 年が経過した屋根は予想以上に劣化しており、土や漆喰・竹・杉皮を全て取り替えざるを得ない状態でした。

解体中の壁。格子状に組まれた竹が見える。

一方、壁も土だけでできているわけではなく、麻や稲わらでできた縄や格子状に組まれた竹で壁の下地が作られています。このため、壁の厚さは 30cm ほどにもなります。解体調査の際に表面にある漆喰の白い壁を剥がしたところ、内部の土や縄、竹が激しく劣化していました。このため、壁の土や縄、竹も取り替えなければならなくなりました。

文化財の保存修復工事では、解体しながら使われている材料や過去の修理の痕跡を調べます。それを踏まえて修理にどのような材料を使うか、どのような姿に修理するのがよいか等を検討するため、時間と費用がかかります。一方で、建物の歴史や普段は見えない内部を知ることができる数少ない機会でもあります。当初の計画とは変わってしまいましたが、元の姿で再び公開できるよう、修復方法の検討を進めているところです。

流山市では、秋元家住宅土蔵を保存し、活用を進めていくための寄付を受け付けています。市民の皆さんの力で、地域に残る貴重な文化財を守っていきましょう。

詳しくは市役所ふるさと納税のページをご覧ください。　　（北澤滋）

➡ http://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001780/1001785/1037429.html

発掘現場から

● 発掘調査の成果を引出す仕事―整理作業の紹介①―

発掘調査と聞くと、「遺跡を掘って土器を探す仕事」というイメージでしょうか？　実はただ掘るだけではなく、遺構（竪穴住居の跡など）の測量や、遺物（出土品）の図面の作成など、遺跡の記録・保存を行う作業も重要な仕事です。

注記作業の様子

発掘調査の成果は調査報告書や博物館の展示によって公開されます。その過程で実施するのが整理作業です。発掘資料から調査成果を引き出し、遺跡の評価を定める作業なのですが、あまり知られていません。今号から、この知られざる整理作業を紹介していきます。

整理作業は、遺物の洗浄から始まります。ブラシで水洗いをするのが基本ですが、土器表面の彩色やこげ跡などの使用痕跡は丁寧に、壊れやすい骨や鉄製品は土を落とすに留めるなど、遺物の性質にあわせた洗浄をします。乾燥させたあと、遺物の裏面に遺跡名や番号を書き込む注記作業を行います。全ての遺物に注記するため、根気と時間が必要で、小さく綺麗な字で書かなければなりません。注記のあとは、遺物の種類・個数、出土位置を記入した台帳を作成し、全体の量を把握します。簡単そうに見える基礎的な作業ですが、経験が必要な仕事です。（小川勝和）

展示会情報

● 小展示「昔の道具～100 年前にタイム・トリップ～」

★会期：令和 6 年 1 月 13 日（土）～3 月 17 日（日）

電気やガスや水道が当たり前ではなかった「ちょっと昔」を、残された道具から振り返ります。

「衣」「食」「住」と「火」に関する道具を合計 80 点ほど展示するほか、昔から今へと道具の変化がわかる「道具年表」を実物の資料で再現します。　（伊藤智比古）

会期中休館日　月曜日（2 月 12 日は開館し、翌 13 日に休館）、1 月 31 日（水）、2 月 29 日（木）

会場　第二展示室　観覧料　無料　※団体見学を御希望の場合は事前に御一報ください。

おしらせ

3月5日10時から
申し込み開始！

● 考古学入門―埴輪について学ぼう―

令和6年3月16日（土）に寺子屋講座「考古学入門―埴輪について学ぼう―」を実施します。

埴輪とは古墳の周りに立て並べられた土製の焼き物です。人の形をしたものがよく知られていますが、筒の形をした「円筒埴輪」のほか、様々な種類の埴輪が存在します。また、一口に「埴輪」と言っても時期や地域によってもいろいろな特徴があります。流山市内でも、東深井古墳群や鰭ヶ崎三本松古墳からたくさんの埴輪が発掘されています。

この講座では流山市内で実際に出土した埴輪を観察しながら、埴輪の種類や役割、見方など基本的なことを学んでいきます。ぜひご参加ください。（志田藤達紀）

● 常設展示リニューアル　第2弾

9月末、常設展示の「町や村の暮らし」コーナーを全面的にリニューアルしました。コーナーのタイトルも「近代の村と人々」と変わりました。

新しい展示では、明治から昭和にかけて流山で活躍した人々や、同じ頃の流山本町のにぎわいを紹介しています。特に、明治の初めに私財を投じてつくられた私立鏑木学校（現・八木北小学校）に関係する資料は、今回新たに展示したものです。

目玉資料は、右の写真にも写っている手ぬぐいです。商店の名や商売にちなんだ柄などがあしらわれ、目を楽しませてくれます。こうした日用品からも、まちの歴史を垣間見ることができます。この手ぬぐいは不定期に展示替えをする予定です。お気に入りの柄を探してみてください。（伊藤智比古）

ながれやま博物館だより　第4号
発　行　日　令和５年12月１日
編集・発行　流山市立博物館
〒270-0176　流山市加一丁目1225-6
お問い合わせ　☎04-7159-3434

ホームページ　Facebook　X(旧 Twitter)　Instagram

※博物館の休館日は月曜日（祝日の場合は翌平日）と月末の平日、年末年始（12月28日～1月4日）です。